

救命処置の手順 (★新型コロナ流行期)

1 安全を確認する

○誰かが突然倒れるところを目撃したり、倒れているところを発見した場合には、近寄る前に周囲の安全を確認します。

★自分がマスクを正しく着用していることを確認します。

★人数に余裕があれば、通報や救命処置をしていない人が部屋の換気をします。

★大人数で密集しないようにします。



2 反応を確認する

★自分の顔を傷病者の顔に近づけないようにし、大声で呼びながら、肩をやさしくたたき、反応を確認します。

○呼びかけに対し目を開けるか、なんらかの返答または目的のある仕草がなければ「反応なし」と判断します。



3 119番通報と協力者への依頼

○大声で応援を求め、協力者が駆けつけたら、「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に依頼します。



4 普段どおりの呼吸があるかの確認

○傷病者の胸と腹の上がり下がりを見て普段どおりの呼吸をしているか10秒以内に判断します。

★呼吸を確認するときは、自分の顔を傷病者の顔に近づけないようにします。

○反応はないが普段どおりの呼吸がある場合は様子を見ながら応援や救急隊の到着を待ちます。



次のような場合は普段どおりの呼吸なしと判断

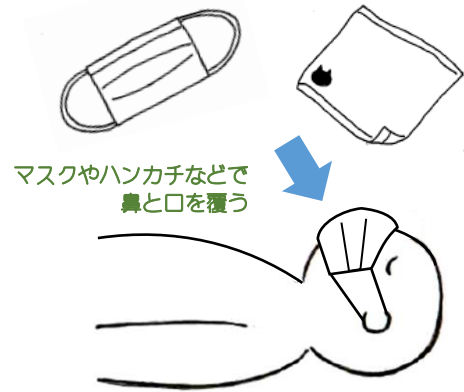
- ・胸や腹の動きがない場合
- ・約10秒間確認してもよくわからない場合
- ・しゃくりあげるような途切れ途切れの呼吸

5 胸骨圧迫

○普段どおりの呼吸がなければただちに胸骨圧迫を開始します。

★傷病者がマスクを着用していれば、外さずそのまま胸骨圧迫を開始します。

★傷病者がマスクを着用していなければ、マスクやハンカチ、タオル、衣服などで傷病者の鼻と口を覆ってから胸骨圧迫を開始します。

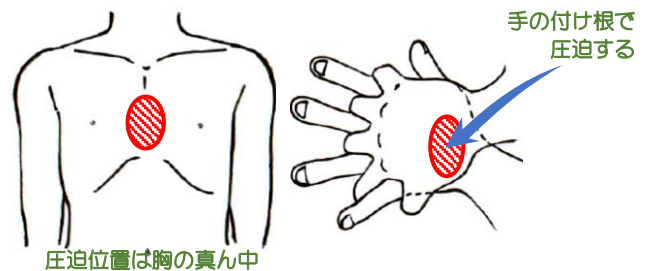


○胸の左右真ん中にある胸骨の下半分を重ねた両手で強く、速く、絶え間なく圧迫します。

○両肘をまっすぐに伸ばして手の付け根の部分に体重をかけ、真上から垂直に胸が約5cm沈み込むようにしっかり圧迫します。

○1分間に100~120回の速いテンポで絶え間なく圧迫します。

○圧迫と圧迫の間は十分に力を抜き胸が元の高さに戻るようにします。



6 人工呼吸

★成人に対しては人工呼吸を行わず、胸骨圧迫のみ行います。

※乳児・小児に対しては人工呼吸の訓練を受けたことがあり、人工呼吸を行う意思がある場合に限り、人工呼吸と胸骨圧迫を行います。



参考（新型コロナ流行期でない場合に実施）

(1) 気道確保（頭部後屈あご先挙上法）

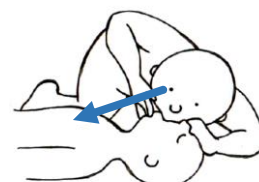
○片手を額に当て、もう一方の手の人差し指と中指をあご先に当てて頭をのけぞらせ、あご先を上げます。

(2) 人工呼吸（口対口人工呼吸）

○気道を確保したまま額に当てた手の親指と人差し指で傷病者の鼻を軽くつまみます。

○自分の口を大きく開けて傷病者の口を覆って密着させ、傷病者の胸が上がるのを見てわかる程度の量の息を吹き込みます。

○いったん口を離し、同じ要領でもう1回吹き込みます。



人工呼吸のポイント

- ・口対口で鼻をつまみながら息を吹き込む
- ・胸が上がる程度
- ・1回約1秒間かけて
- ・2回続けて試みる
- ・10秒以上かけない

胸骨圧迫 人工呼吸
30回 ↔ 2回
を繰り返し実施する！

7 AEDの使用

- 心肺蘇生法を行っている際にAEDが届いたらすぐにAEDを使う準備を始めます。
- AEDを使う準備をしながらも心肺蘇生をできるだけ続けてください。

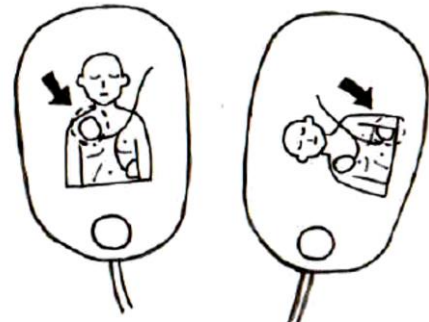
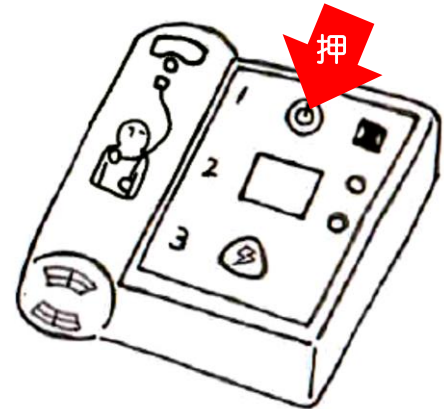
AEDの準備と装着

- ①AEDを傷病者の頭の近くに置く。
 - ②AEDの電源を入れる。
 - ・ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。
 - ・電源を入れたら、それ以降は音声メッセージ等の指示に従って操作します。
 - ③電極パッドを貼る。
 - ・傷病者の胸をはだけます。
 - ・電極パッドを袋から取り出して電極パッドを保護シートからはがし、電極パッドや袋に描かれているイラストに従って粘着面を傷病者の肌に直接貼り付けます。
- ※未就学児用パッドが備わっている場合は未就学児に対して使ってください。小学生以上は小学生～大人用パッドを使用してください。

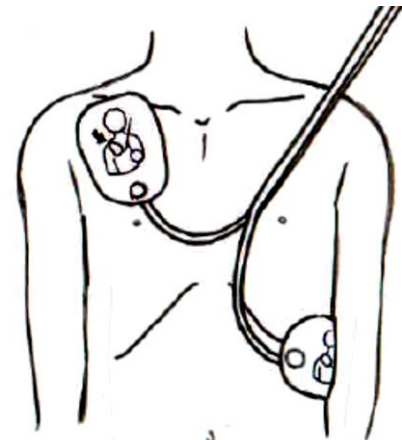
AEDの機種	傷病者の区分	
	小学生以上	未就学児
電極パッドで使い分ける機種(※)	小学生～大人用電極パッド	未就学児用電極パッド
本体のスイッチで切り替える機種	通常モード	未就学児用モード

※AED本体に未就学児用の電極パッドが入っていない場合には、入っている電極パッドを使用する。

電源を入れる



2枚に分かれている電極パッド



電極パッドを貼り付ける位置

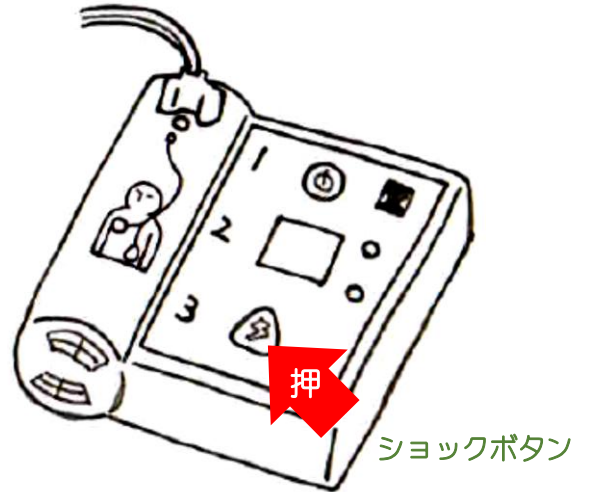
心電図の解析

- 電極パッドを貼ると“体から離れて下さい”などの音声メッセージが流れ、心電図の解析を始めます。このとき、「みなさん、離れて!!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- AEDは、電気ショックを行う必要があると解析した場合には“ショックが必要です”，必要が無いと解析した場合には“ショックは不要です”などの音声メッセージを流します。
- ”ショックは不要です”といった音声メッセージの場合は、直ちに胸骨圧迫を再開します。



電気ショック

- AEDが、電気ショックが必要と判断した場合は、「ショックが必要です」といった音声メッセージとともに自動的に充電を始めます。
- 充電が完了すると、「ショックボタンを押して下さい」といった電気ショックを促す音声メッセージが流れます。
- AEDの操作者は、「ショックを行います。みなさん離れて!!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認して、ショックボタンを押します。



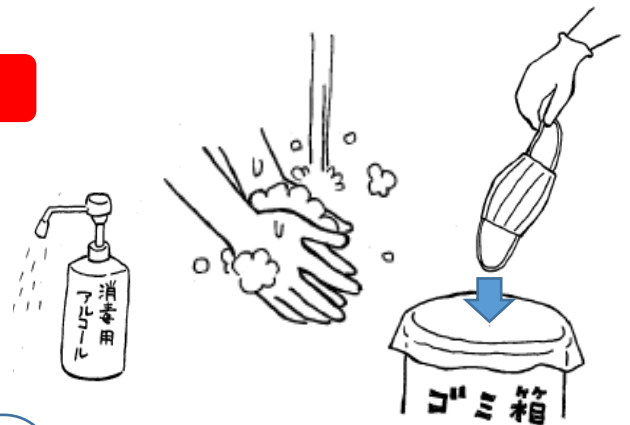
心肺蘇生の再開

- 電気ショックを行ったら、ただちに胸骨圧迫を再開します。
- ※AEDを使用する場合でも、AEDによる心電図の解析や電気ショックなど、やむを得ない場合を除いて、胸骨圧迫の中断をできるだけ短くすることが大切です。



8 救急隊への引き継ぎ後の対応

- ★傷病者を救急隊に引き継いだ後は、速やかに石鹸と流水で手指や顔を十分に洗います。
- ★アルコールで手指を消毒するのも有効です。
- ★傷病者に使用したマスクやハンカチなどは直接触れないようにして廃棄します。



☆心肺蘇生を中止するときは

①救急隊員と交代したとき

救急隊が見えたらすぐに救命処置をやめるのではなく、心肺蘇生を中断することなく、救急隊員に交代するまで続けます。その後救急隊員からの質問に答えて下さい。

②傷病者に普段どおりの呼吸が戻り、呼びかけへの反応や目的のある仕草が認められたとき

心肺蘇生をいったん中止し、慎重に傷病者を観察しながら救急隊を待ちます。この場合でも、AEDの電極パッドははがさず、電源も入れたままにしておきます。

